

『残心 (ざんしん)』をとる！がんばれ3年生！！

先週の大雪への対応もありがとうございました。朝晩はまだまだ厳しい寒さが続いています。少しずつ春のような陽気の日もあります。このように、三寒四温を繰り返しながら確実に春へと向かっていくということを改めて感じます。また、先週末には新入生説明会を実施させていただきました。2年生の学年合唱の披露からスタートし、中学校生活について6年生の児童と保護者の方々にお話しを聞いていただきました。(6年生の児童のみなさんは素晴らしい態度で、たいへん立派でした)保護者の皆様方には、お忙しいなか、参加していただき、誠にありがとうございました。6年生の児童のみなさんの本校への入学を心よりお待ちしております。

さて、『残心 (ざんしん)』という言葉があります。多くの人にとってなじみのない言葉かも知れません。でも、剣道部の生徒や柔道部の生徒など武道をしている生徒は、学んだことがあると思います。この言葉は、武道の言葉として古くから伝わる言葉です。現代では、剣道などの稽古中に使う言葉ですから、一般的には知らなくてあたりまえだと思います。この言葉のように、日本人は、様々な分野において、伝統的な武道や芸道から生まれた言葉を活用しています。知っておくと役に立つと思います。



さて、『残心』の言葉の意味ですが、文字通り「心を残す」ということです。しかし、「心残り」という意味ではありません。例えば、剣道などで言うと相手を正確に打っただけでは、有効な「一本」にはなりません。打っただけではだめなのです。打った後も姿勢を崩さずに、気力は途切れさせず、相手の次のどんな攻撃に対しても対応できる心構え、気構えがあること・・・、これが剣道などで一本を取るための重要な要素であり、『残心』なのです。つまり、剣道では、相手を打つことが目標になるのですが、相手を打った後、「放心 (ほうしん) 状態」になってはいけないということなのです。このように考えると、『残心』とは『放心』の逆という意味と考えてもいいかもしれません。

これを現在の3年生に応用してみます。現在3年生は、入試に挑戦しています。私立の推薦入試、公立の前期入試が終わり、これから私立の一般入試、来月には公立の後期入試等と続いていきます。また、少しずつ合格の内定や不合格の結果が届いています。2月9日(金)には前期入試の合格内定者の発表がありました。このような時期だからこそ、結果がどうであれ、放心状態になってはいけないのです。最終的に合格したり、成長したりする人は、ここで崩れないのです。それぞれの立場で、自分を見失わずに、「今すべきこと」や「次にすべきこと」を考えて行動して行ってほしいと思います。『残心』とは勇気をだして挑戦した後も気力を途切れさせず、「放心状態」にならず、「さあ来い!」「さあ行くぞ!」という気概で、自分自身を崩さないようにすることです。合格内定をもらった人は、うれしさでいっぱいですが、その結果は自分の力だけでなしえたものではありません。みなさんは、これまで、仲間とのチームワークと絆でここまでできたのです。「3年生全員の進路決定・全員合格」という目標に向かって、最後まで全員で頑張りましょう。全員がそれぞれの立場で「今からの自分はどういう態度でいるべきなのか」をしっかりと考えてほしいと思います。一人一人の人間性が問われるときでもあるのです。不本意な結果の場合もあります。しかし、全力で頑張ってきた自分を否定することはありません。今回の結果は、進路確定までの通過点に過ぎないわけですから、合格内定、不合格を問わず、全員合格達成、全員の進路決定までは「自分ができること、すべきこと」を判断し、最善の努力を続けていきましょう。

うらかな春は 厳しい冬の後に来る

可愛い ふきのとうは 霜の下で 用意された (宮本百合子)

厳しい冬の後には、うらかな春が来ることを信じて、

3年生みんなで、入試を乗り越えていきましょう!



価値ある挑戦～生徒会役員活動がはじまっています～

「学校だより 敬愛 No13」でも紹介させていただきましたが、3年生中心の生徒会役員のみなさんは、様々な工夫をしながら、柔軟な考え方や行動力で、今年度素晴らしい生徒会活動をおこなってくれました。その素晴らしい伝統や思いを引き継ぎ、「理想の学校」をつくるために、また敷島中学校を良くしていくためにと、昨年12月に13名の1,2年生が生徒会役員に立候補をしてくださいました。生徒会役員選挙に挑戦する人が多いことは、私は素晴らしいことだと思います。そして素晴らしい学校の証だと思います。たくさんの人たちが勇気をもってこの学校のためにと行動を起こしてくれたことをたいへんうれしく思いました。

生徒会役員へのチャレンジも簡単なことではないと思います。13人の生徒会役員のみなさんには、新しい気力、英知、情熱を敷島中のために注いでほしいと思います。苦難にひるまず、立ち向かう信念にこそ、全校生徒は拍手を贈るのだと思います。

年が明け、能登半島地震への義援金の呼びかけにはじまり、あいさつ運動などの活動もスタートしています。全校のリーダーを支えながら、敷島中学校をよりよい学校にしていくのは、全校のみなさんになります。さらに素晴らしい敷島中学校にしていくよう、全校で頑張らしましょう。

令和6年度 生徒会本部役員

会長 遠藤明来さん(2-5)

副会長 剣持奏汰さん(2-5)・今津美桜さん(2-2)

神澤景吾さん(1-5)

本部役員 田中月乃さん(2-2)・白鳥美鈴さん(2-3)

堀内海音さん(2-2)・小林虹和さん(2-3)

久保田智也さん(2-4)・穴澤一真さん(2-5)

海野陽梨さん(1-1)・丸山明莉さん(1-3)

羽鳥花歩さん(1-4)



心と身体を鍛えよう～“鍛練”に思う～

14日(水)に今年度3回目の鍛練(たんれん)を実施しました。敷島中学校の伝統的な行事のひとつに、この「鍛練」があります。この行事は、前回の東京オリンピックの翌年(1965年)から続いているものです。以前は校外走として実施してきましたが、現在は島上条公園の周回コースを2周(約2300m)走ることとしています。コロナの影響で実施出来なかった年もありましたが、今年度5回計画をしました。(残念ながら暑さと雨のため今年度は3回の実施となりました)本校の学校教育目標のひとつに自ら「体を鍛える生徒」を育成するという目標がありますが、本校で学んだみなさんの先輩方も、運動を通して自己の体力向上を図り、精神のたくましさを養うとともに、仲間同士で励まし合うことによって大切な絆を深める機会としてきました。心と身体を鍛えるために、自己ベストを目指してよくがんばっていました。保護者の皆様方におかれましては、熱心に見守りや救護、応援をありがとうございました。

